

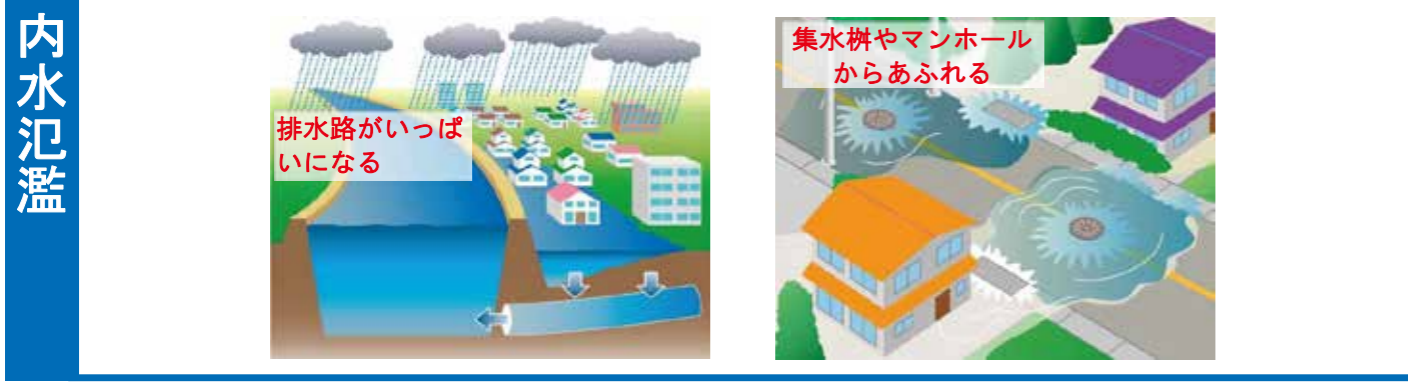
内水ハザードマップとは

内水ハザードマップとは、排水路の処理能力を超える豪雨により、集水桝やマンホールなどから水があふれて起こる浸水の危険性を示した地図です。この地図を活用して、大雨時にどのような行動が必要か、家族や地域で話し合い日ごろから備えておきましょう。
◇このマップは、河川の洪水は想定していません。

想定される水害（外水と内水の違い）



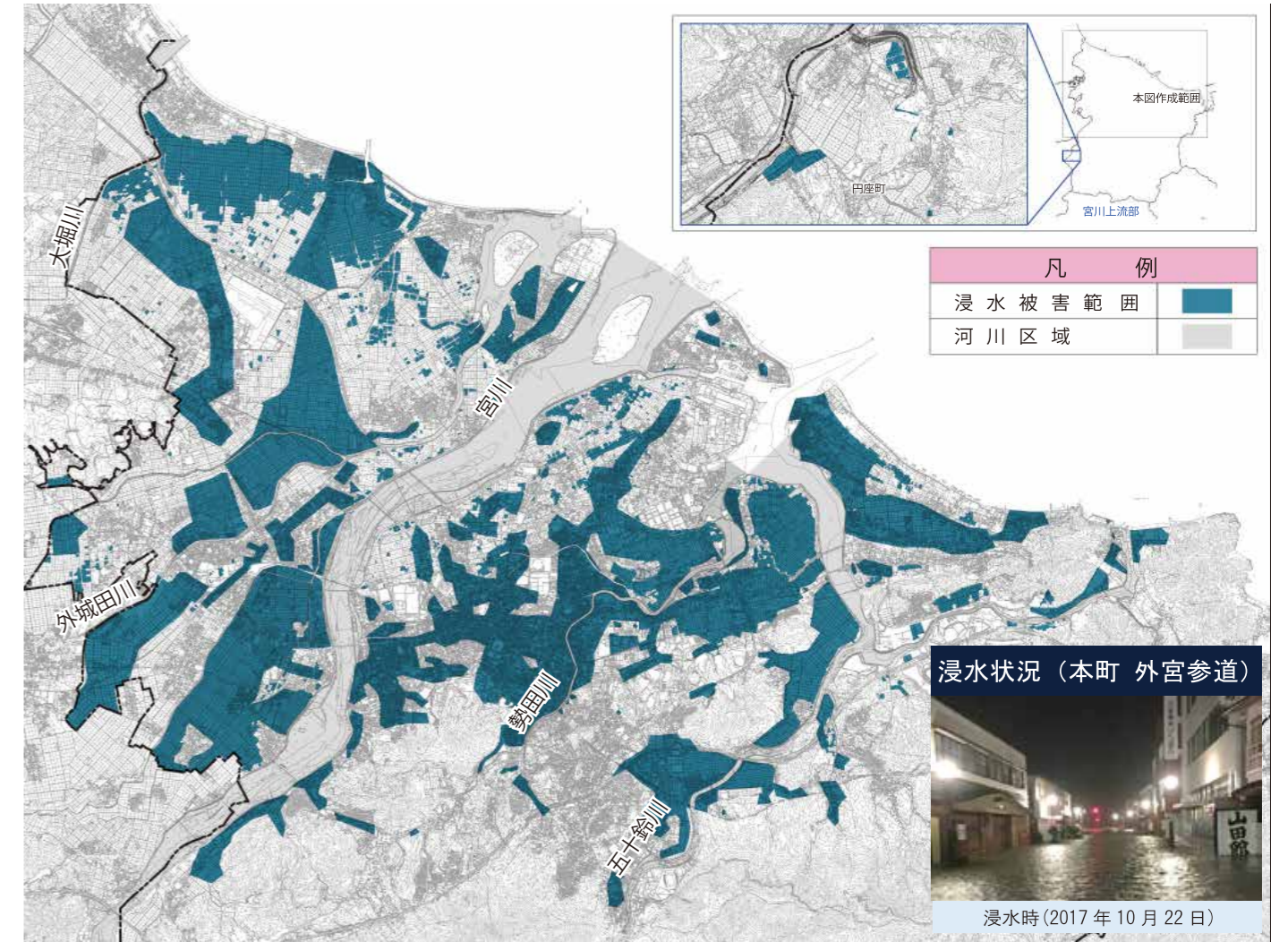
短時間に大雨が降った場合、排水路やポンプの能力を超え一気に流入しあふれだします。また、大雨が降り続いた場合も、河川の水位が上昇して、雨水排水を河川に流せなくなりあふれだします。これらが原因となって起こる氾濫を“内水氾濫”といい、あふれた水により道路冠水や床上・床下浸水などの被害が発生します。



内水氾濫に備えましょう！

平成29年台風第21号による浸水被害

台風第21号は、平成29年10月23日未明に伊勢市に最接近し、記録的な雨を記録しました。アメダス小俣観測所で、昭和54年からの観測史上最大の48時間雨量となる539ミリを観測し、床上浸水409棟、床下浸水670棟、店舗、倉庫などの浸水773棟（平成30年3月9日現在）など多くの被害が発生しました。



内水による浸水を防ぐための行動

内水氾濫に備えて、家の出入り口などに土のうや止水板を用意しておきましょう。土のうや止水板の作成に必要なものはホームセンターなどで購入できます。緊急時にどうしても土のうや止水板の準備が間に合わない場合は、簡易水防の方法があります。ただし、あくまでも小規模で水深の浅い初期の段階に行うものです。

【止水板の設置例】 【簡易水防】 【家のまわりの点検・清掃】

